

# 平成21年度第1回日本海海況予報

## 1. 今後の見通し(2009年4月～6月)

- (1) 大和堆南西、隠岐諸島北方及び上越沖の暖水域は、ほぼ停滞する。能登半島西方、佐渡島北西及び佐渡島北方の暖水域は、北東に移動する。男鹿半島沖及び津軽半島沖の暖水域は、北上した後消滅する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、弱い。山陰・若狭沖及び佐渡島沖の冷水域の張り出しは、平年並み。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”で経過する。

## 2. 経過(2008年11月～2009年2月)

- (1) 11月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、ほぼ停滞。2月にはその南東部が若狭湾～加賀海域で接岸。  
11月に佐渡島南西及び佐渡島北方でみられた暖水域は、12月までほぼ停滞。  
11月に山形沖及び津軽半島西方でみられた暖水域は、消滅。  
2月に能登半島沖、上越沖、佐渡島北方、男鹿半島沖で暖水域を確認。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。佐渡沖の冷水域は、規模は平年並みで離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は大きく接岸(11月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温  
11月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、丹後半島以西では“かなり高め”～“はなはだ高め”の海域が広範囲に分布。  
12月：島根沖で“やや低め”、富山湾では“かなり高め”の海域が分布するが、それ以外は概ね“平年並み”～“やや高め”。  
2月：概ね“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(10～12月平均)。

## 3. 現況(2009年3月)

- (1) 暖水域は、大和堆南西、隠岐諸島北方、能登半島西方、上越沖、佐渡島北西、佐渡島北方、男鹿半島沖及び津軽半島沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は小さく離岸。山陰・若狭沖及び佐渡島沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は小さくてやや離岸(3月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、概ね“平年並み”～“やや高め”で、隠岐諸島北西海域では“かなり高め”～“はなはだ高め”の海域が分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”(1～3月平均)。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

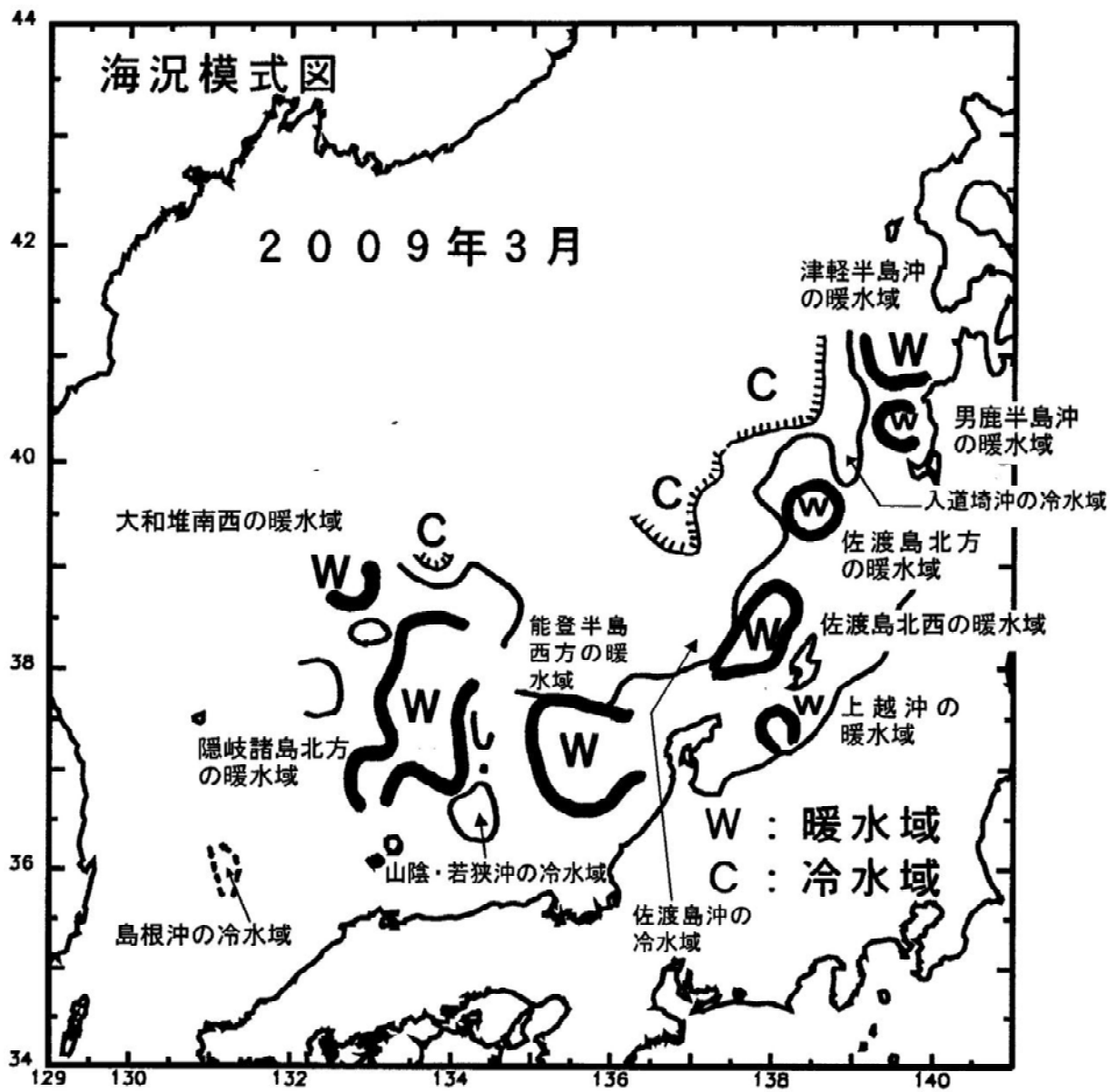
”やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2009年3月の海況模式図

## 参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所